



【小田原市立病院】



AYA世代のがん治療と妊娠について

～妊孕性温存における病院連携～

小田原市立病院の取り組み

妊孕性（生殖機能）温存とは、将来自分の子どもを授かる可能性を残すために、AYA世代（15歳から39歳）の患者さんが、がん治療の前に、卵子や精子、受精卵、卵巣組織の凍結保存を行う治療のことで、妊孕性（生殖機能）温存を検討するためには、生殖医療を専門とする医師との密な連携が重要であり、その他にも看護師、薬剤師、心理士、遺伝カウンセラー、相談員など多職種の医療従事者によるサポートが必要不可欠となります。

当院では、主に下記の医療機関との連携を図っており、妊孕性（生殖機能）温存治療をご希望される患者様の紹介等に積極的に取り組んでおります。

なお、妊孕性（生殖機能）温存治療にかかる紹介状（診療情報提供書）等のやり取りにつきましては、当院の地域医療連携室にて対応させていただきます。

【主な連携医療機関】

- ・横浜市立大学附属病院市民総合医療センター
- ・聖マリアンナ医科大学病院
- ・メディカルパーク横浜



その他 全国がん・生殖医療機関一覧↑

【地域医療連携室】

TEL

0465-34-3175

FAX

0465-35-2524